



## 縄文を表現する 新川昌子氏作 「私の縄文日記」開催！



当資料館では7月3日より、コーナー展「縄文を表現する～新川昌子氏作『私の縄文日記』～」が始まりました。

『私の縄文日記』は家庭画報展に出品され大賞にも選ばれた人形作品です。作者である新川さんは、当資料館で活動している「からむしの会」に以前参加されていたこともあり、今回このような形でお披露目させていただくことになりました。

新川さんは、様々な資料館・講演会等に参加し、縄文時代についてご自身で調べられ、その当時あったであろう素材・技法をとりいれながら、7年

どの歳月をかけ66体もの人形作品を作り上げたそうです。その中から、34体をお借りして展示しております。

今回、水子貝塚の四季の風景と富士見市内で出土した遺物を合わせて展示しております。普段は無機質な遺物ですが、このような作品と一緒に展示することにより、遺物の物語を想像することが出来ます。表情豊かな人形たちからは今にも話し声が聞こえてきそうです。皆さんもお気に入りの1体を見つけてみてはいかがでしょうか。

# 縄文の森から

水子貝塚公園の夏は昆虫たちの季節です。

コウチュウではカブトムシやクワガタムシ、シロテンハナムグリやカナブン、ヤマトタマムシなど、チョウではアオスジアゲハ、アカボシゴマダラ、ゴマダラチョウ、ヒオドシチョウ、テングチョウなどは一生を公園内だけで過ごせます。

スズメバチの仲間もみられますが、ほとんどが餌場、狩場、そして越冬場所としての利用で、コガタスズメバチ以外の種は巣作りに適した場所が無いので、巣は公園外にあると考えられます。

トンボではノシメトンボ、シオカラトンボなど

が餌場として、アキアカネやウスバキトンボが渡りの中継地として訪れます。おそらく縄文の森で一生を過ごすトンボはヤブヤンマだけでしょう。

みなさんが目にするトンボは水面にお尻をちょんちょんとつけて産卵するか、水中から生える草などに卵を産み付ける種類が多いと思われませんが、ヤブヤンマは水際の湿った土中に卵を産むという少し変わった生態をしています。

幼虫は水中でくらし、落ち葉が溜まって水質が良くない水溜り状の止水域でも生きることができます。ポウフラ（カの幼虫）やオナガウジ（ハナアブの幼虫）などを捕食して育ち、卵が孵化してから1年で成虫になります。

成虫はカやアブなど小型昆虫を捕食し、見た目は黒に黄色の縞や斑なので、オニヤンマと勘違いする方も少なくないようです。

稀に本物のオニヤンマやオナガサナエもいることがあるのでよく観察してみてください。



カブトムシ



ゴマダラチョウ



ヤブヤンマの産卵



## イベント レポート

水子貝塚資料館では毎年1回「縄文の森コンサート」を実施しております。展示館内に再現された竪穴住居跡と同じ空間で行われるコンサートは他では見ることでできないものかと思ひます。

今年は、ハンドパン奏者の野田義晃<sup>の だ よしあき</sup>さんをお招きし演奏していただきました。あまり見る機会のない楽器の音色に来場者も聞き入っていました。

演奏終了後には、ハンドパンを実際に触れて体験する時間も設けられ、皆さん興味津々でした。

来年はどのようなコンサートにしようか、今から思案しております。来年のコンサートもお楽しみに！





### 貝塚山遺跡出土の「関沢類型」深鉢

富士見市渡戸一丁目の貝塚山遺跡から出土した、縄文時代後期初頭（約 4,500 年前）の「称名寺式」と呼ばれるタイプの縄文土器の深鉢です。土器の表面を区画し、その区画内に縄文を施すことで、アルファベットの「J」あるいは渦巻きのような文様を形作っていることが特徴です。

また、土器の口縁（フチの部分）は4つの波のような形をしており、その頂上部分には立体的な装飾があります。土器の胴体は中ほどで少しくびれ、その部分を挟んで文様が上下に分かれています。このような特徴をもつ土器は、称名寺式土器のなかでも「関沢類型」という名前で細別されま

す。富士見市関沢三丁目の節沢遺跡で見つかった土器に基づいて命名されました（発掘当時は関沢遺跡第2地点と呼ばれていたことから、この名前になりました）。

関沢類型の土器は、関東一円に広く流行していた加曾利 E 式と、関西地方の土器に影響を受けて生まれた称名寺式の、両方の要素を併せ持った土器だと言われています。

市内の遺跡から名前がつけられた土器型式としては「打越式」が有名ですが、知る人ぞ知る称名寺式関沢類型の土器も、ぜひ覚えてあげてください。



### 南通遺跡 第 34 地点（針ヶ谷二丁目） 調査期間 令和7年5月28日～

### 南通遺跡の環濠集落を発掘中

富士見市針ヶ谷二丁目では現在、南通遺跡第 34 地点の発掘調査を実施しています。南通遺跡では、これまでの調査で、弥生時代後期～古墳時代前期の大規模な環濠集落跡が見つかっており、今回の調査地点はこの集落跡の北東の端に位置しています。

第 34 地点における現在までの調査では、竪穴住居跡が 11 軒、環濠の一部が発見されています。

集落を囲む溝跡である環濠は、外敵から集落を守るための防御施設であったと考えられています。今回の調査では、環濠の外側からも多くの住居跡が発見されました。なぜ防御施設の外側に住居跡があるのか、今後の調査や研究に注目です。

（協力：富士見市教育委員会生涯学習課 菅沼）



調査区内を縦断する環濠と竪穴住居跡



住居跡内で集中して出土した台付甕などの土器

# 8～10月のイベント予定

\* イベント予定は変更することがあります  
最新の情報は広報富士見公式サイトで

## コーナー展

### 縄文を表現する

～新川昌子氏 作『私の縄文日記』～

日時 7月3日(木)～9月10日(水)

内容 新川昌子氏制作作品『私の縄文日記』の一部とそれに関連する遺物などを展示します。表情豊かな人形をお楽しみください。

## 水子貝塚 星空シアター

日時 9月6日(土) 15:00～20:30

雨天の場合は9月7日(日)に順延

内容 ステージ・縄文体験・模擬店  
映画「カンフー・パンダ4」

## ツリークライミング®体験

日時 9月21日(日)

10:00/12:15/13:50

参加費 子供 2000円 大人 2500円

定員 各回 10名

9月2日より電話・窓口にて受付開始

## 縄文の森観察会(秋)

新緑の季節とはまた違う秋の装いに変化した水子貝塚公園内の草木や昆虫を当館職員と一緒に観察します。

日時 10月25日(土)

午後1時～午後2時

場所 水子貝塚公園内説明広場集合

定員 15名(当日先着順)

## 入間東部地区資料館

### クイズ&スタンプラリー

富士見市・ふじみ野市・三芳町の資料館を巡って、クイズ&スタンプラリーに参加しよう! 7館すべてのスタンプを集めた方に記念品をプレゼント!(なくなり次第終了)

夏休み(7/21～8/24)期間中は

平日も!

# 体験! いつでもセブン

## 開催中! ぜひご参加ください!

※詳しい開催カレンダーはHPをご覧ください

## 土曜おもしろミュージアム

会場 体験学習室または学習広場

時間 午前10時～、午後1時30分～

受付は各30分前より

各1時間～2時間程度

定員 各回15人(当日先着順)

対象 小学生以上

(未就学児は保護者同伴で可)

日程	内容(参加費)
9月20日	土笛づくり(100円)
10月4日	縄文ポシエット(100円)
10月18日	草木染(200円)
11月1日	ミニチュア土器(100円)



発行日 令和7(2025)年7月26日

編集・発行 富士見市立水子貝塚資料館

国指定史跡 水子貝塚公園内 〒354-0011 埼玉県富士見市大字水子 2003-1

水子貝塚資料館

検索

資料館HP

二次元コード



☎ 049-251-9686

FAX 049-255-5596

